

ちるイル

「触るだけですよ・・・
それ以上は絶対にはいからッ!」

家賃は身体で払わせる

-----若妻集金孕ませ中出し-----

基本CG14枚(エッチ11枚+会話3枚)+差分
合計181ページ(本編90+文字無90+表紙)

「すみません、家賃の支払い
もう少しだけ待ってもらえないでしょうか？」

「ダメです、もう3ヶ月だ。

今週中に払ってもらいますよ」

夫の勤め先の会社の倒産という理由もあって
今まで多めに見てきたが、そろそろ限界だった。
それほど居住者もないこのアパートで家賃を滞納され続けては
管理人のコツチの生活にも影響が出てくる。

「奥さんのパート代で何とかならないんですか？
生活費ぐらいは稼げてるんでしょ？」

「それでも正直なところギリギリで……。
時給も低いですし、既に借金もある状態で。」

「……外でこういう話すのもなんですし、
一旦家で話しましょうか。」

そう言って俺は彼女を部屋に連れこんだ。

「で、どうするんですか？」

こっちもボランティアじゃないんだから。
いつになったら払えるんです？」

「・・・すみません、

正直時期も目処がついてなくて、
働く時間も増やしてなんとか
お支払いしますので・・・」





「それじゃ困るんですよ。
期限も約束できないのなら、
今月で退去してもらおうって事で」

「そんなぁ・・・
お金は必ず何とかしますので！
引っ越しする費用すら今は厳しくて。」

「何とかって。」

そもそも奥さん、まだ若いんだし本当に稼ごうと思ったら色々仕事あるでしょ。」

「そういう事じゃ無いんですよ。俺が言ってるのは、身体使う仕事の事だ。」

「いえ、職歴もパートとかしかなくて中々高額で雇ってくれる会社も・・・」



「身体を使う・・・
仕事？」

「そつ、そんなこと出来ないです！
そもそも私結婚してるんですよ！」

「風俗とかですよ。
奥さん美人ですし若いんだから、
家賃も借金もすぐ返せる金額
稼げるでしょ。」



「結婚してるからってお金無いなら
仕方ないだろ！
人妻向けの店もあるんだし！」

「何言ってるんですか！
知らない人に相手に身体を
触らせるなんて出来ません！」

「へえ、
知らない人じゃなきゃいいんだ？」



「えっ？どろろい？」

「俺と奥さんは
知り合いだよなあ。
ちよつといいこと思いついた。
いうこと聞くなら支払いは
待ってやってもいいぜ。」



「前から思ってたけど
やっぱでかいな。」

たぽんっ

「知らないですッ、
やめてください！」

「おいおい、胸を揉ませるだけで
家賃待ってやるって言ってるんだぜ？
こんな美味しい話はねえだろ。」



「触るだけですよ、
それ以上は絶対にないですからッ！」

「そ、そんなッ……。」

「わかってるって、
て言うかブラ越しじゃ
揉んだ気しないんだよなあ。
直で揉ませろや。」

もみっ

もみっ





「おお、直に見るとますますエロいな。
なんだ乳首立ってんじゃん。」

「うッ・・・。
知らないです。」

「何恥ずかしくてんだよ。
旦那にいつも揉まれてんだろ。」

ぽんぽん！

ぽんぽん！



「……………」

もみっ!

もみっ!

もみっ!

「へえ、もしかして
セックスレスってやつ?
あんましてねえんだ?」

「そんなこと……
関係ないでしょ……!」

「せっかくタダでこの身体を
自由にできるってのに、
旦那は罰当たりだなあ。」

「ヒヒヒ！」

「うあ……
もっと優しく……。」

「優しくも良いけど、
ただ揉んでるだけじゃ
奥さん気持ち良く
ならねえんじゃないの？」





「ふえっ……？」

「ふえっ」

「ふえっ」

「モノは相談だ。家賃をマケて
やっても良い。
その代わりもう一個お願いを
聞いてくれや。
奥さんにも悪くない話だと思うぜ」



「何、大したことじゃない。
奥さんも俺もお得な話だ。」

「……………」



「うぁ……
こんなのやだっ！」

「何がやなんだよ？
自分でいつも弄ってんだろ
こうやって？」

「うっ・・・!!
そんなことしてません!」

ゴクッ♡

「へえ、じゃあ欲求不満は
どうやって解消してんだ?
旦那とはご無沙汰なんだろう?」

ゴクッ♡





「くふっ、あっ！
んん・・・っ！」

「そんなあっ・・・、
恥ずかしい・・・！」

「パンツの上からだとうまくいじれねえだろ？
脱いじまえよ！」

♡ちゅ♡

わふっ♡



「うあ……！
だめえ……！
見られながらこんな
ことするなんて。」

にちゅ♡

じゅぽ♡

はあ♡
はあ♡

「その割にいい
声でんぜ？」

「ああつ……！
んう……！
こんなのダメエ……！」

「お願いです・・・！
見ないでください！」

にちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

「俺には構わず
もっと激しく弄ってみろよ！
だんだん気持ち良くな
ってきただろ！」

「オラ！もっと激しくいじれよ！
いくまで終わらねえからな！」

ハア

ハア

クチゅ

くちゅ

くちゅ

「ダメ……！」

人前で……！」

ひっ、ああっ！ダメえ！」



「イイ」

~~~~~

「ん」

「ん」  
「ん」

「ん」

「ん」





「ひゅ……  
ひゅ……」

ぬちゅっ♡

はぁ♡  
はぁ♡

「おお、奥さんだけ  
イっちゃたのか？  
でも一人だけってのは  
ずりいよなあ？」



「今までの延滞分も  
考えてやるから、  
俺のもしやぶつてくれよ。」

「……ッ！」

ぽんっ

ハア  
ハア





「スッキリしたら賃料のことも  
どーでも良くなっちゃうかもなあ？  
考える内容じゃ無いよなあ？」

ふっふ  
♡

「触るだけだって  
言ってたじゃ  
無いですか・・・！」

はあ♡  
はあ♡



「支払いを待つ上に  
マケてやろうって言ってるんだ。  
それとこれとは別だろうが。」

あう  
♡

「・・・  
今回だけですから。」

んっ  
♡





「おお、暖かくていい感じだわ。  
もっとガッツリ啜えてくれや。」

ぽろぽろ

ちゅぽ♡

ちゅぽ♡

「そうそう、カリ首も  
丁寧な舐めまわす感じで。」

ちゅぽ  
ちゅぽ

「ううっ。。。  
はやく終わって。」

ハア  
ハア







ぐんぐん

「いいねえ、そろそろイキそうだ。  
ガッツリ啜えてろ！口に出すぞ！」



「んっっっっっ」

「ああそっ！  
絞り取られる！  
全部飲みほせ！」

ガッ♡  
ガッ♡

オ・シ・タ・ス





「はあ、スッキリしたわ！  
でもまだまだ元気なんだよなあ！  
じゃあ値下げ交渉続けようか奥さん。」

ジュン

ジュン



「住むとこ無いと困るだろ？  
今ちよつと我慢するのと、  
この先の苦労考えたら  
答えは一択だ一択！」

「ちよつと！  
こんなの聞いて無いです！  
絶対ダメ！」

ぽん





「や、やだぁ・・・！  
ちよつと待って！」

「家賃は待ってやっても  
良いぜ・・・  
でもこっちは・・・」

ゴクゴク♡  
ゴクシ♡



「ふーん」

「おっ！いい具合だわ！  
ヌルヌルになってん  
じゃねえか！」





「えぐっ……  
ひどいっ！  
許さない……！」

「そんなこと言ってる割に  
締め付けるじゃねえか？  
アンタも溜まってるんだろ？」

ちゅぽっ♡

♡さっへ



「やだぁ・・・！  
こんなのやだよー！」

「奥さんの中良すぎて  
すぐイキそうだ！  
そろそろ出すぞ！」

ふちゃ

いざっ

ぐちゃっ

んっ  
んっ  
んっ







「悪い悪い、  
ゴムしてなかったわ。  
一回出しちゃったし、  
何回でも同じだよなあ？」

ピク  
ッ♡

しゃぽっ

ぶちゅ

ピク  
ッ♡

「うそっ・・・！  
中に出てる・・・  
なんで・・・！」



「1日のうちにこんなに  
するのは久々だわ！  
今何回めだ？」

「良い加減返してください……！  
早くピル飲まないと……」

ひま♡ひま♡

♡わ♡♡わ♡



「しらねえよ！」

とういか奥さんもノッて  
きたんじゃねえか？  
またがって腰振りやがって！」

あう  
♥

にゅっ  
♥ じゅぽん

「そっ、そんなこと・・・！」







ハア ハア

「中出しされまくって  
発情してんのか?  
オラ! また出すぞ!」

「やだ・・・!  
もう中出しされたくない!」

ふちゃ  
ぽちゃ





「ふうう。  
出した出した。  
また頼むわ奥さん。」

あう  
♡

はち  
♡

「そんな・・・  
もういやです・・・  
今回限りでこんなこと」

ちゅぽ  
♡





「さて奥さん・・・？」

また支払いを伸ばしてほしいって？  
まあ相談ぐらいは聞くけどさ。」

「それよりなんでこんな所で  
相談なんですか・・・？  
昼間からラブホテルなんて・・・」



「そもそも、支払いは  
待ってくれるって！」

「そっそんな・・・！  
あんなことまでされたのに！」

「それは先月分な！  
それ以上前から延滞してる分  
いっぱいあるじゃねえか！」



「そのあんなことされた、相手にラブホに呼び出されて、ノコノコ着いてきたんだ？期待してんのか？」

「わかってるわかってる。家の周りじゃ近所の目もあるしって気遣いだよ。」

「なあっ……！わ、私はそんなこと考えてなんか……！」





「でもさ奥さん、どっちにしろ  
払えないんだろ？」

折角だしまたバイトしないか？」

「そうか、じゃあこうしよう！  
家賃免除の他にバイト代  
もプラスだ！」

「そんな！そもそも話が  
違います！早く話し合って、  
ここから帰らせてください！」



「そういう問題じゃ・・・」

「良いから良いから。  
どっちみち旦那と家を追い  
出されるか、今俺に抱かれるかの  
二択しかねえんだ！  
さっさと犯らせろや！」





「相変わらず良い乳だわ。  
デカイのにいい感じに  
ハリがあつて。」

ふふんっ♡

「ちよつと！  
だから辞めてください！  
こんな事にきたわけじゃ。」





ふっふ

うるせえよ!  
ごちゃごちゃ  
言いやがって。

ふっふ



「ラブホに付いててきてる時点で  
その気ありだろうが！」

「ううつ・・・！  
そんな事ないです！」

♡  
V♥  
♡

♡  
V♥  
♡



「何がそんな事ないだ  
この淫乱女！」

乳首ビンビンじゃねえか！」

「やめて！そんな事ない！  
私は・・・。」





「相変わらず素直になんねえなあ！  
しゃーない、身体に聞いて  
やっから覚悟しとけ！」

「やだっ！  
これ以上はやめて！  
お願いだから！」





「おいおい、  
胸揉まれただけなのに  
ぐちよぐちよじゃねえか。」

「そんな事ないです！  
お願いだからやめて！」

うん





「何言ってんだ嘘つき女！  
じゃあなんでこんなに  
ズルズルになってんだ！？」

「はぁん！」

ふっふっ  
♡

「ふん」



「嗅いでるじゃねえか！  
旦那以外で感じがたって！  
申し訳ねえと思わねえのか！」

んっ  
んっ  
♡

「うう・・・！  
感じてなんかない！」

うっ  
うっ  
うっ





あう...あう...  
あう...あう...

はあ♡  
はあ♡

「まだ言ってるのか！  
お前はどんな奴でも  
感じる淫乱女なんだよ！」

ちゅぽ♡  
ちゅぽ♡



「今回も中出ししてやるからな！  
おら、受け止めろ！」

ふっふっ♡

ハァ♡ハァ♡

「やめて・・・！  
中はダメ！中は・・・」

しゅぽっ  
うめっ  
うめっ





「だめえ！  
はあああうん！」

あう♡

あう♡

うん♡  
うん♡



「ふう！出した出した。  
奥さんもだんだんいい声に  
なってきたなあ。  
ま、これからもよろしく。」

「ひっ……！  
いやあ……。」

ジュジュ  
ジュジュ

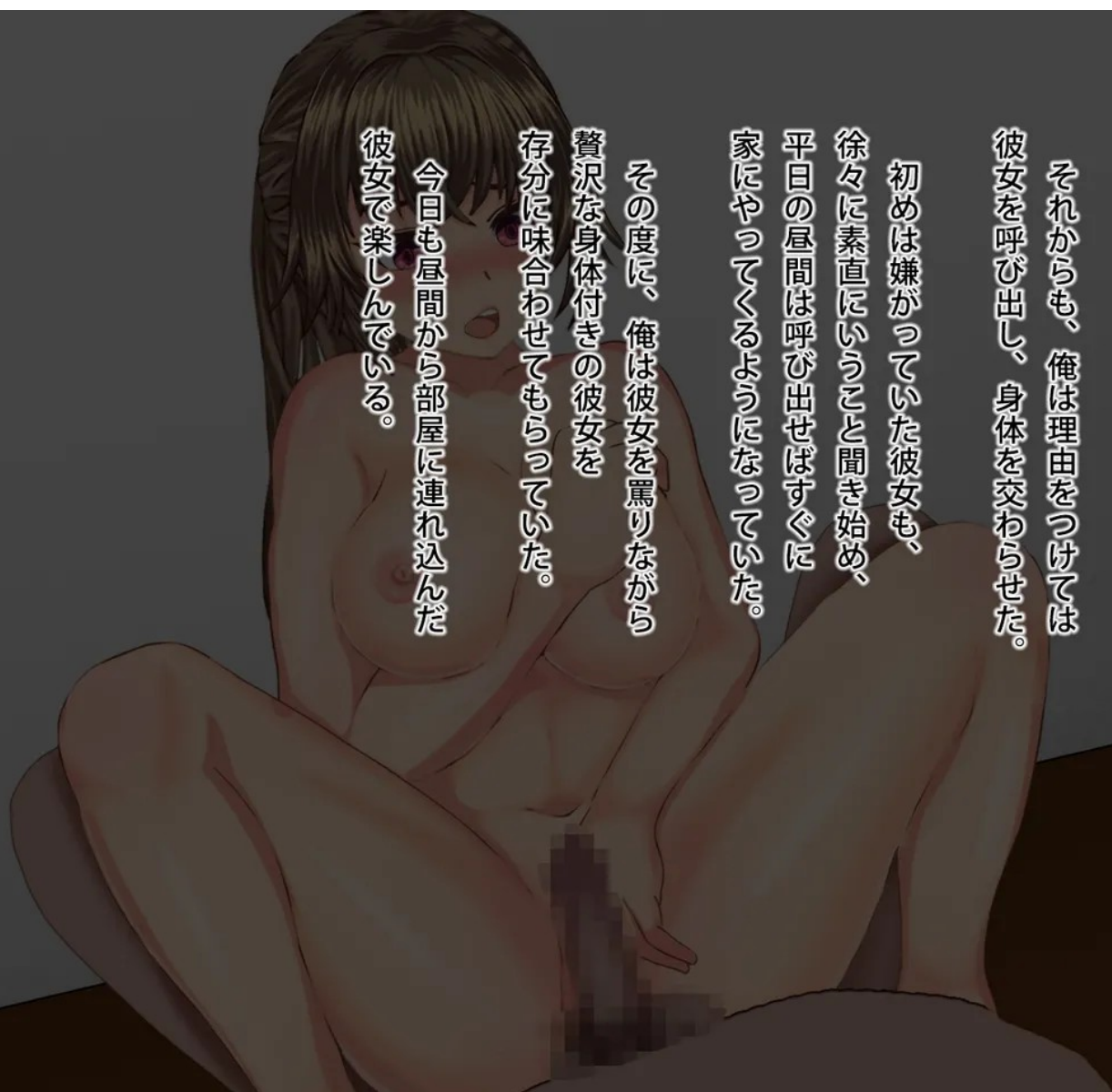


それから、俺は理由をつけては彼女を呼び出し、身体を交わらせた。

初めは嫌がっていた彼女も、徐々に素直にいうこと聞き始め、平日の昼間は呼び出せばすぐに家にやってくるようになっていた。

その度に、俺は彼女を罵りながら贅沢な身体付きの彼女を存分に味わわせてもらっていた。

今日も昼間から部屋に連れ込んだ彼女で楽しんでいる。



「昼間から呼び出して悪いな  
それじゃお楽しみと  
行こうか。」

はあ  
はあ

んん

「ううっ・・・  
なんで毎回こういう流れに。」





「うあぁん・・・」  
「・・・きたあ！」

ドクッ♡

にゅっ♡

「これも人付き合いの  
うちだと思えよ。  
支払い待ってくれてる恩人に  
感謝の気持ち持って奉仕しな。」



「最近是中々素直になつて  
きたじゃねえか！  
俺のアソコが気に入ったか？」

あう  
♡

「そんな訳無いじゃないですか。  
私はただ、家賃のお話を  
しに来てるだけで。」

ちゅぽ  
♡

ちゅぽ  
♡





「へえ？生でアソコに突っ込まれて  
そんな喘ぎ声で嗅いでるのか？  
そもそも毎回こうなってるのに、  
それでも家賃の話だって？」

んっ♡

「あつ、あなたが無理やり  
いつもこんな事するから  
じゃないですか！」

んっ♡

んっ♡





「欲求不満で浮気セックスに  
ハマったんだろ！  
人のせいにすんじゃねえ！  
罰として中出ししてやる！」

「そんな！やめて！  
中はだめえ！」

ハア♡

ハア♡

じゅぽっ

じゅぽっ

♡じゅぽっ♡

♡じゅぽっ♡



ぐわっぐわっ

うお！イク！

ズッ

ズッ



「ああよかったわ！  
とりあえずシャワー浴びてくるか。  
夜には家に戻らねえと怪しまれんだろ？」

「あっ……  
うっ……！」





「ちょっと、シャワー  
浴びにきたのにここで  
またしたら意味ない  
じゃないですか！」

はあ♡  
はあ♡

「どうせすぐ  
流すんだし一緒だろ！  
また元気になっち  
まったからよ。」



「ああーいいわ！  
相変わらず奥さんも  
ぐしょぐしょだな。」

ふっふ  
♡

しゅぽっ

「んっ！ダメ！  
さっきいった  
ばっかりなのに。」





「これはシャワーで濡れてるだけで・・・」

ひあ♡

「そうか、シャワー浴びてるもんな！  
どうせ流れるしまった  
中出しで大丈夫だよな！」

んっ♡

んっ♡  
んっ♡  
んっ♡





「うるせえよ！  
中に注いでやる！  
うお、イク・・・！」

ちゅぽ♡

ちゅぽ♡

ちゅぽ♡

んっ♡  
んっ♡  
んっ♡

「ちよつと、  
また・・・！  
いい加減外に  
出して・・・！」



「うお！また搾り取られる！  
ドエロな人妻マ●コめ！」

「おおおお〜」

ハア  
ハア

ド・ン





「もう……！！  
なんで毎回  
中に……！！」

「ふっ出した出した。  
今日もごちそうさま、  
また頼むわ。」

んっ♡

んっ♡

んっ♡



「よお、奥さん。」

部屋に入るのは入居手続き以来だが、  
ホントに金ねえんだなあ。  
ほとんどモノが置いてねえ。」

「ホントに余裕が無いんです。  
それより、なんで部屋までくるん  
ですか！」



「大家として当たり前だろ？  
家賃の催促も含めてなあ。  
まあこの様子じゃまた身体で  
払ってもらう事になりそうだが。」

「きよ、今日は絶対ダメです。  
また後日にして下さい！」





「おいおい、なんでダメなんだよ。生理中か？俺は別に構わねえぞ。気にすんなよ。」

「なっ！違います！

・・・今日は危険日なんです。あなたの事だからまた避妊もせずにするつもりでしょ。」

「さすがに避妊は考慮するさ。断るなら今までの事、あんあたの旦那に伝えて家賃回収するわ。」





「そんなっ・・・！  
なんでそうなるんですか！  
お願いですからやめて下さい！」

「やめてほしいなら言う事  
聞けよ。ほら、さっさと  
服脱いで裸になれ。」

「うっ・・・。」





「はっ、  
はい・・・!!」

はあ  
♡  
はあ  
♡

クチユウ

「ほら、危険日マ●コ  
がどうなってるか  
開いてみせろ!」





「おいおい！

触ってもねえのに

ぐちよぐちよじゃねえか！

バッチリ子作りモード

入ってんな！」

「仕方ないじゃないじゃ  
ないですか・・・  
生理現象なんだし。」

ちゅぽ♥





「本能的に子作り  
したいってか？  
じゃあ孕めるように今日も  
たっぷり出してやるわ！」

「じよ、冗談です  
よね・・・！  
今日は絶対中出しは  
ダメですから！」

ひあ♡

いざいざ♡♡



「そんなもん  
持ってねえよ！  
生で入れるに  
決まってるだろ！」

「お願いします！  
ゴムつけてください！  
今日は絶対ダメ！」

あーん





はあ♡

「お願いです！  
今日は外に出して！  
ホントに赤ちゃん  
できちゃう・・・！」

「しゃーねーな、じゃあ正直に  
危険日マ●コで感じてるって  
言ってみろ！  
そしたら考えてやる!!」

♡さへ

あう♡

あう♡

「き、危険日マ●コ  
で感じてます。  
夫以外の挿れられて、  
孕んじゃう  
かも知れないのに  
感じちゃってます。」

「うーん足りねえ！  
口だけでいいから  
中出して孕ませて  
って伝えてみる！」

ちゅぽ♡



んっ♡

「私の危険日オマ●コに  
一杯中出しして、  
孕ませて下さい！  
私の中で一杯射精して、  
赤ちゃん作らせて  
下さい！」

「しゃーねえ、じゃあ  
がつつり中出し  
してやるから絶対孕め！  
うおっ！そろそろ出る！」

ぶちゅ  
ぶちゅ









「ああ良かったわ！  
いつも以上に  
吸い付いてきたなあ。」

「なんでえ・・・。  
これじゃホントに  
赤ちゃん出来ちゃう。」





「ひどい・・・！  
中に出さないって  
言ったのに・・・！  
オマ●コ精液で  
ぐちよぐちよ  
になってる・・・！！」

「こんだけ出したらホントに  
孕んじゃうかもなあ。  
想像以上に良かったわ  
危険日中出し。」



「悪いな持ってねえわ。  
まだまだ時間あるし、  
一通り楽しませてもらったら  
買いに行っても良いぜ。  
間に合うかどうかしらねえけど。」

「うう・・・。  
早くピルを・・・。  
お願いします！」

ひあ♡

♡ぽんき





「・・・早く満足して  
下さい。」

また私のマ●コ  
使って良いですから。」

「良いぜ、全部搾り取れるよう  
頑張るな。  
早くしないとマジで  
間に合わなくなるぜ。」







































































































































































